

第2回網走川河川整備計画検討会 議事要旨

日時:平成24年6月1日(水) 14:30~16:00

場所:津別町中央公民館 1F 講堂

事務局より開会の挨拶及び委員の紹介の後、前回検討会の質問に対する補足などについての説明を行い、以下のような議論が行われた。

■第1回検討会の補足説明

委員:平成4年と平成19年の湿地面積の変化は、基準を明確にして整理して欲しい。

事務局:判断基準を明確にした上で、再整理したい。

■網走川現地視察時

各委員からの意見

①特殊堤及び矢板護岸

委員:特殊堤区間のコンクリート矢板の劣化がはやいと感じた。

委員:現在、補修で使用しているコンクリートで劣化を抑えられるのか。

事務局:施工当時の塩害に対する基準が変更となっており、現在実施中の補修を行えば、劣化の進行は抑えられると考えている。

②塩淡水境界層制御施設

副委員長:施設の効果検証は、どの様に行うのか。

事務局:網走湖及び網走湖下流の河川環境のモニタリングを実施しているところであり、網走湖塩淡水境界層制御施設モニタリング検討会で効果を検証していくこととしている。

④女満別キャンプ場

委員長、委員:女満別湾の水が濁っているが、要因は何か。

事務局:女満別湾の水深は浅いために、風が吹くと、湖底が巻き上げられ、濁りやすい状態となる。

⑤湖響橋

委員長:湖響橋の上流に比べて下流の川幅が広すぎられるので、川幅縮小への注意が必要。

事務局:掘削方法を検討するとともに、モニタリングを継続して実施する。

委員長:この地点の樹木による流下能力の減少はどの程度か。

事務局:間引き伐採により約 70m³/s 程度、流下能力が向上している。

⑥治水橋

委員長:低水路を広げ過ぎると、砂州の発達、樹林化を助長し、流下能力の低下を引き起こす懸念がある。

委員:単なる低水路の拡幅は川幅縮小を引き起こす可能性があるので、治水橋の流下能力不足区間の対策案については、十分な検討をしてほしい。

事務局:掘削方法については、検討する。

⑦美幌川新興樋門

委員:ポンプ排水によるこの地区の被害軽減効果はどのくらいなのか。また、堤内排水の排水系統を確認すること。

事務局:被害軽減効果及び排水系統について確認しておく。

委員長:釜場への集水機能を維持するためにも、釜場に接続する排水路の維持が重要。

⑧東幹線頭首工

委員長:魚道の流れが速すぎるので、改善が必要である。

⑨活汲橋

委員:この地区で期待した砂礫の堆積は思ったほど進んでいないように思える。土砂管理を適切に行うためには、上流からの土砂量の把握と土砂堆積要因の分析が必要である。

委員:この区間は過去の改修により直線化しすぎてしまった印象を受ける。

⑩達美橋

委員長:上流に砂州が発達しているが、土砂堆積の要因を把握する必要がある。

⑪その他

委員:高水敷の樹木管理については、採草地のような人の手が入っている場所では樹林化しない良い面がある一方、採草地は堆肥などが原因で、ふん便性大腸菌が高くなる可能性があり、注意が必要である。

■網走川の課題について

委員:外来種ではオオハンゴンソウ、ニセアカシアの繁茂が問題である。対策としては、ドロノキが生えている箇所にはニセアカシアは生えてこないため、植物により抑制を図るのが良い。

網走川流域にはキキンと名の付く支川が6つある。それらには地域を代表するエゾノウワミズザクラが生えているのが特徴的であるので、大事にしてほしい。

副委員長:流域全体をみて川をどう考えるか、整備計画での目標流量をどう設定するかが重要である。

委員:汽水環境を保全することが重要であり、汽水域に生息するシジミ・シラウオ・ワカサギに影響を与えない対策とすべきである。網走川と同じように汽水域を持つ河川として、岩木川、斐伊川があり、これら2河川の整備計画を紹介して欲しい。

委員:網走川は多様な環境を有しているので、河川整備にあたっては長期的な視点に立ってそれらの環境を保全可能な対策とすることを望む。豊かな自然景観を保全しながら、整備計画を検討して欲しい。

委員長:中流域の流下能力に余裕が有る区間を利用して、中流では中流の分を負担するなど、治水対策の縦断配分を考えていけないか。河道内貯留については、下流への負荷を減らす方法の一つとして検討を進めて欲しい。

■次回の案内

今回は前回及び今回の意見を踏まえて、整備計画で目標とする流量、治水対策案について検討し、提示したい。